

つながる ひろがる ハンドブックー札幌市の幼保小連携・接続ー作成にあたって

国の動向

平成29年3月に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針が改訂(改正)となり、**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)**が共通に示されました。このことは、幼児期の教育で育む資質・能力について整合性が図られたことを意味します。

また、小学校学習指導要領の改訂においてもこの「10の姿」が示されました。教育課程を編成するにあたり、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえた指導の工夫、教育活動を展開し、児童が自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにすることとしています。

令和4年度から実施している**幼保小の架け橋プログラム**では、5歳から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」とし、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が図られるよう、モデル事業や手引の作成等、様々な取組を行っています。

札幌市の動向

平成25年度から、区ごとに幼保小連携推進協議会を設置し、連携・接続の基盤をつくってきました。札幌市の5歳児の多くは、札幌市の市立小学校に就学します。幼児教育を含む札幌市の学校教育を互いに見通し、各園・校の実践の充実を図るため、このつながる ひろがる ハンドブックー札幌市の幼保小連携・接続ーを作成しました。

令和3年度～令和5年度に実施したモデル事業や、市内各地域で実践した具体的な取組について掲載しています。各園・校の参考にさせていただくことはもちろん、実情に応じてアレンジ、アップグレードするなど、多くの方々に活用いただくことを願います。

札幌市の教育が目指す人間像

自立した
札幌人

未来に向かって新たな価値を創造し、主体的に学び続ける人
自他のよさや可能性を認め合い、しなやかに自分らしさを発揮する人
ふるさと札幌に誇りをもち、持続可能な社会の発展に向けて行動する人

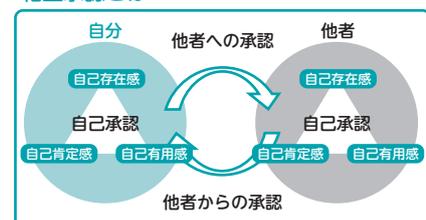
札幌市学校教育の基盤

人間尊重の
教育

子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重する相互承認の感度を高め、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となっていく教育



相互承認とは



学びの芽生えから



……3歳

4歳

5歳

架け

札幌市の学校教育

学校・家庭・地域が一体となって、札幌市学校教育における学びや成長を

さっぼろっ子に育みたい資質・能力

「学ぶ力」～自ら課題を

「学ぶ力」を支える三つの資質・能力(幼児)
学びに向かう力・人間性等
またやってみよう!
あきらめないぞ
ぼくってすごい!
あの子も素敵!

遊びを通して総合的に

そうか!
こうすればいいんだ
自分の力でできたよ

知識及び
技能の**基礎**

もしかしたら
こうなるかも…
次はこうしてみよう

思考力・判断力・
表現力等の**基礎**

健康な
心と体

自立心

協同性

思考力の
芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

幼児期の終わりまで

つながるひろがる
札幌市の幼児教育



幼児期にふさわしい生活
の中で、子どものしたいこと
が叶い、その子らしさが
発揮され、子どもが主体的
に生活できる。

幼児教育(めばえる)

※「幼児期にふさわしい生活」を展開する中
で、幼児期特有の学習である「子どもの自
発的な遊び」を通して、探究心や思考力、
協同性の芽生えを育みます。

※教師との信頼関係に支えられた生活・興味や関心に基
づいて直接的な体験が得られる生活・友達と十分関わっ
て展開する生活(幼稚園教育要領)

各園で幼児期にふさわ
しい遊びや生活を積み
重ねることにより、幼
児期に育みたい資質・
能力が育まれている幼
児の具体的な姿

つなひろマップ 自園は 自校は 今、どの位置?それぞれにおける具体的な

区幼保小連携推進協議会

02 つながろう

いろいろなアプローチ

施設的环境や人を生かして

03 かかわろう

知り合って かかわって

お互いの心の距離を縮めて

自覚的な学びへ

橋 期

1年生

2年生……

実感し、その過程や経験を誇りにもって、心豊かにしなやかに歩み続ける子どもを育みます。

見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力



小学校段階(そだつ)

教育活動全般において※1「課題探究的な学習」を取り入れた授業づくりと※2「さっぽろっ子自治的な活動」を2本柱として学ぶ力の育成を目指します。「どのように学ぶか」という視点を大切に、学びや活動の中に未来に生きて働くための「本物の経験」となり得る場を創出することで、子どもの「学ぶ力」を育みます。

※1 自ら疑問や課題をもち、主体的に活動する学習

※2 子どもが「～したい」という意欲をもち、よりよい方法を考えて動き、集団づくりや社会への参画を通して変化を生み出した喜びを手応えとして心に残す主体的な活動

中学校段階(のびる)

高等学校段階(ひらく)



自立した札幌人

実践事例を紹介します。

27 ページへ



01 はじめよう はじめの一步

地域にはどんな園・学校があるのかな

04 ふかめよう

遊びや学習が充実

育てたい子どもの姿を共有して

05 ひろげよう

地域で育む・地域がつながる

地域が互いに声を掛け合って

札幌市の幼保小連携・接続

幼保小連携モデル園・校事業の取組

つながるひろがるマップ

実践例

「自園・自校の実態に応じた取組」



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)って何だろう

幼児教育において育みたい**資質・能力**が育まれている**具体的な姿**です。

幼稚園・認定こども園・保育所のどこであっても、幼児教育で育みたい力を**共通に示した**ものです。

保育者が**指導を行う際に考慮するもの**ですが、**到達目標ではありません**。

小学校では**10の姿を踏まえた指導の工夫**をすることにより、幼児期に育まれた**資質・能力**を伸ばすことができます。

健康な
心と体



やりたいことに向かって
心と体を十分に働かせて

自立心



自分の力で
あきらめずにやり遂げて

協同性



思いや考えを共有して
共通の目的の実現に向けて

道徳性・
規範意識の
芽生え



自分の気持ちを調整したり
友達と折り合いを付けたり

社会生活
との
関わり



地域の人と触れ合って
地域に親しみをもって

思考力の
芽生え



考えたり
予想したり
工夫したり
新しい考えを生み出す喜び

自然との
関わり・
生命尊重



自然に触れて
好奇心や探究心をもって

数量や図形、
標識や文字
などへの関心・
感覚



数量や図形、標識や文字などに
親しむ体験を重ねて

言葉による
伝え合い



経験したことや
考えたことを伝えたり
相手の話を聞いたり

豊かな
感性と
表現



感じたことや考えたことを
表現することを喜んで

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校に
おける姿のつながりはコチラ→



幼児教育で育まれた力を生かした小学校教育って何だろう

教職経験に応じた研修を生かして

他校参観研修

(小学校主幹教諭や中堅教諭等による研修)

目的 自校の1年生のカリキュラムを有効なものにするため幼児期の教育活動を知る。

学び 鬼ごっこや色水遊びなど夢中になって遊ぶ中で、幼児がやりとりしながら自分たちで遊びを進めようとする姿、またそれを支える教師の意図的な働きかけと根拠となる子どもの見取りやその視点を知った。遊びが楽しいと子どもの主体的な姿につながる。

主体的に学ぶ
授業づくりの
参考になった

ある小学校の取組

幼稚園体験研修(1年生担任が近隣の幼稚園へ)

目的 遊びを通して学びを深めるための教師の支援や場の設定について学ぶ。

学び 園の遊具や身近な素材を使った遊びの環境づくりや楽しさの見える化は、学校の教室環境の参考になった。「また続きがしたい」という遊びへの思い入れは、子どもの興味や関心がどこにあるのかを教師が見逃さないことが大切。幼児期の経験をもっと知り、1年生にとって本当に必要な関わりや指導が何かを考えたい。

参観や指導要録
などによる
情報収集が大切

園から送付された指導要録を見てみよう

指導要録は、幼保小接続のツールの一つと言われており、幼児教育施設は小学校等へ育ちのバトンを適切につなぐため、作成しています。幼児期の終わりまでに育てほしい姿を踏まえ、その子の持ち味やどのような育ちが見られているのか、そして園の先生方がどのような指導をしてきたのかが分かるものです。

新1年生一人一人の理解とともに、関わりや指導のヒントを得られるこの指導要録を十分活用しましょう。



(様式3) 幼稚園幼児指導要録(最終学年の指導に関する記録)

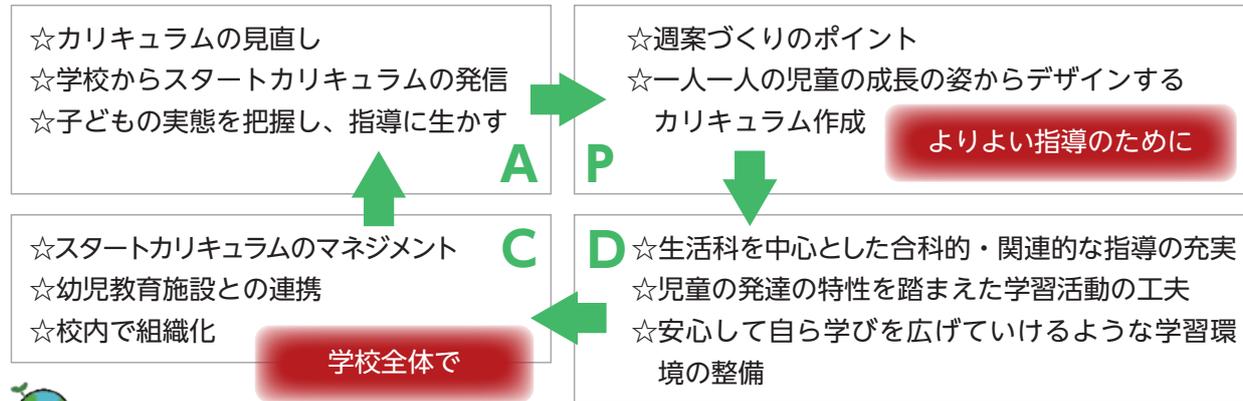
氏名	平成 年 月 日生	指導の重点等	学年の重点 年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したもの
性別	ねらい (発達を促せる視点)		個人の重点 1年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点
健康	ねらい (発達を促せる視点)	1年間の指導の過程と幼児の発達の姿	1年間の指導の過程と幼児の発達の姿 ・当該幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの ・次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項

Q 様式の参考例(H30_札幌市教育委員会)

札幌市教育課程編成の手引-小学校編-「生活1年 スタートカリキュラム」より

スタートカリキュラムの編成に係る基本的な考え方を以下のように示しています。

詳細は
コチラ



適応のためではなく、児童が安心して自己を発揮し主体的に学びに向かうためのカリキュラムです。

札幌市の幼保小連携・接続の取組 — 幼保小連携推進協議会 —

札幌市では、平成25年度から、区ごとに幼保小連携推進協議会を設置し、連携・接続の基盤をつくってまいりました。区内の3歳以上の幼児教育を行う施設と小学校の担当者が一堂に会し、顔が見える関係づくり、互いの教育・保育の理解に向けた研修や協議、就学時における幼児教育施設から小学校への引継などに取り組んでいます。

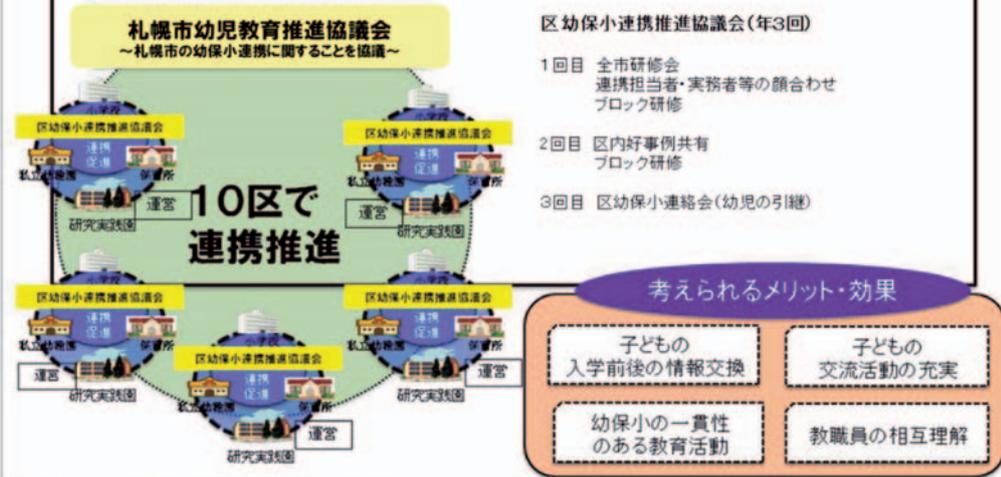
さらなる幼保小連携・接続のために

各区研究実践園を中心に幼保小の連携を推進

より組織的、機能的、継続的に体制整備を行う

幼保小連携推進協議会

各区に協議会を設置し、幼保小の管理者・教職員の定期的な会を実施



区代表者会

小学校長会、区保育・子育て支援センター（ちあふる）所長、札幌市私立幼稚園連合会、札幌市私立保育連盟、日本保育協会、区幼児教育支援員（市立幼稚園教諭）及び市立幼稚園長（区幼児教育コーディネーター）が区代表者として協働して運営しています。

全市研修会

学識経験者などの講話を聴き、幼保小連携・接続の意義等について学びます。全区が同内容の講話を聴くことができるよう、同時配信や動画視聴を取り入れています。

ブロック研修

日常の連携を円滑に進められるよう、小学校や中学校の校区の中にある施設同士でブロックを編成し、顔合せや研修等を行います。

幼保小連絡会

保護者の了承を得た通常の学級に就学する配慮が必要なお子さんについて、指定した日時に一斉に引継を行います。特別支援学級や特別支援学校に就学するお子さんは、個別に園と学校がやりとりします。

幼保小連絡会の手順を園・学校に事前配布し、支援をつなぐポイントを確認

札幌市は全国に先駆けて、公立・私立の施設が共に幼保小連携・接続の推進を行ってきました。現在は「幼保小架け橋プログラム」などでも、そのように取り組むことを促しているところです。

今後は、組織体の充実だけでなく、協議会をきっかけとした各園・校の日常の教育・保育の実践に落とし込むことが一層重要です。

年度当初に配布するリーフレット

日程

教育委員会が日程を決め、年度当初に対象となる施設宛て文書を送付しています。

第1回と第2回は、10区を2つに分けて日程を設定し、第3回は全市一斉に実施します。

会場

代表者会で検討します。小学校に会場提供の協力を仰いだり、市有施設等を借りたりします。

参加者

会の内容によって変わります。管理職だけでなく実務担当者の参加により、効果が高まると考えます。

- ・カリキュラム・マネジメントに関わる教務担当者
- ・架け橋期に関わる職員（年長・1年担任）
- ・特別支援教育コーディネーター など

令和5年度版

子どもたちの学びと育ちをつなげるために

区ごとに 幼保小連携推進協議会

を設置しています

どのような会なの？いつ行っているの？

子どもの発達や学びの連続性を保障し、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続するため、区内の連携推進やネットワークづくりをしています。年3回（5月、10月、1月）実施しています。

誰が参加しているの？

区内の幼稚園、認定こども園、**保育所**及び小学校の実務担当者（年長、低学年担任）や連携担当者が一堂に会して顔を合わせます。

※保育所：3歳以上の保育を行っている認可保育所としています

どのようなことをしているの？

1、2回目は「幼保小連携・接続ってどういうことだろう？」というテーマで講演を聞いたり、教職員同士で研修したりします。
3回目は「幼保小連絡会」と呼んでいます。通常の学級に就学する「配慮の必要な幼児」について小学校へ引継を行います。



各区の代表者会が運営します
※公立、私立の幼稚園・保育所及び小学校の園長/校長等で開催されます



近隣地域（小学校区や中学校区）でブロック編成をして交流を深めます



遊びの写真を見ながら、幼保小の先生方が語り合いました

協議会に参加すると...

地域の施設同士がなかよくなる
「こういう活動をしたいのだけれど...」「園や学校の子どもの様子を見に来て!」など、互いに相談、交流しやすい関係づくりができます。

先生方同士が学び合える
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿?スタートカリキュラム?聞いたことはあるけれど、詳しくは分からない...なんてことはありませんか。具体的な実践をもとに学ぶことができます。

他園・他校の実践が参考になる
区内の好事例を聞いて「これならできそう」「これをやってみよう」と、自園・自校の実践のヒントをもらえます。



このタテとヨコのつながりが
子どもたちの育ちと指導の充実につながります!
ぜひ、ご参加ください。